

行動する知性。



学術情報システムの再構築に向けた 見直し議論の現段階と今後の方向性

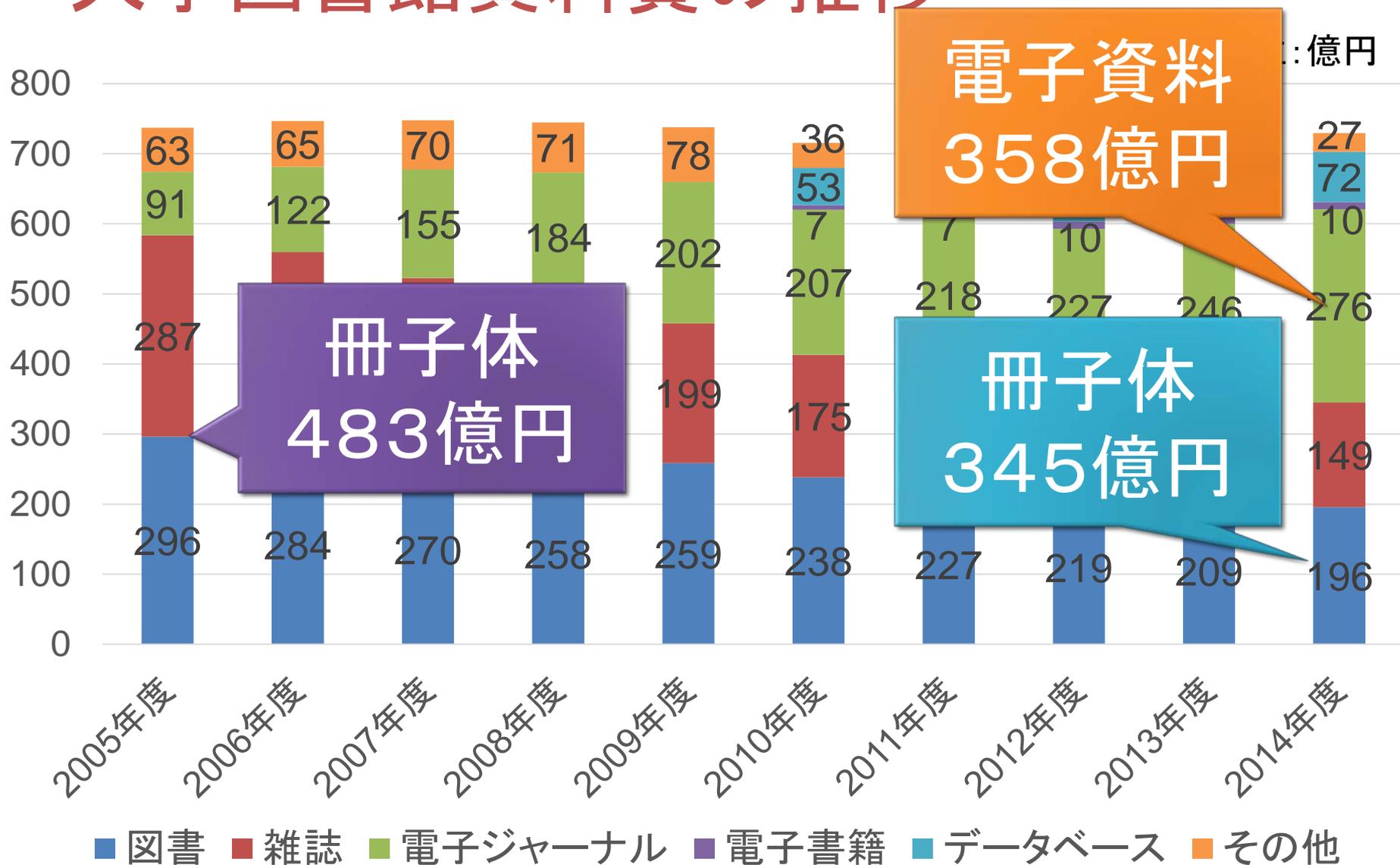
中央大学文学部 小山憲司

2016年10月16日
第102回全国図書館大会
@青山学院大学青山キャンパス

目次

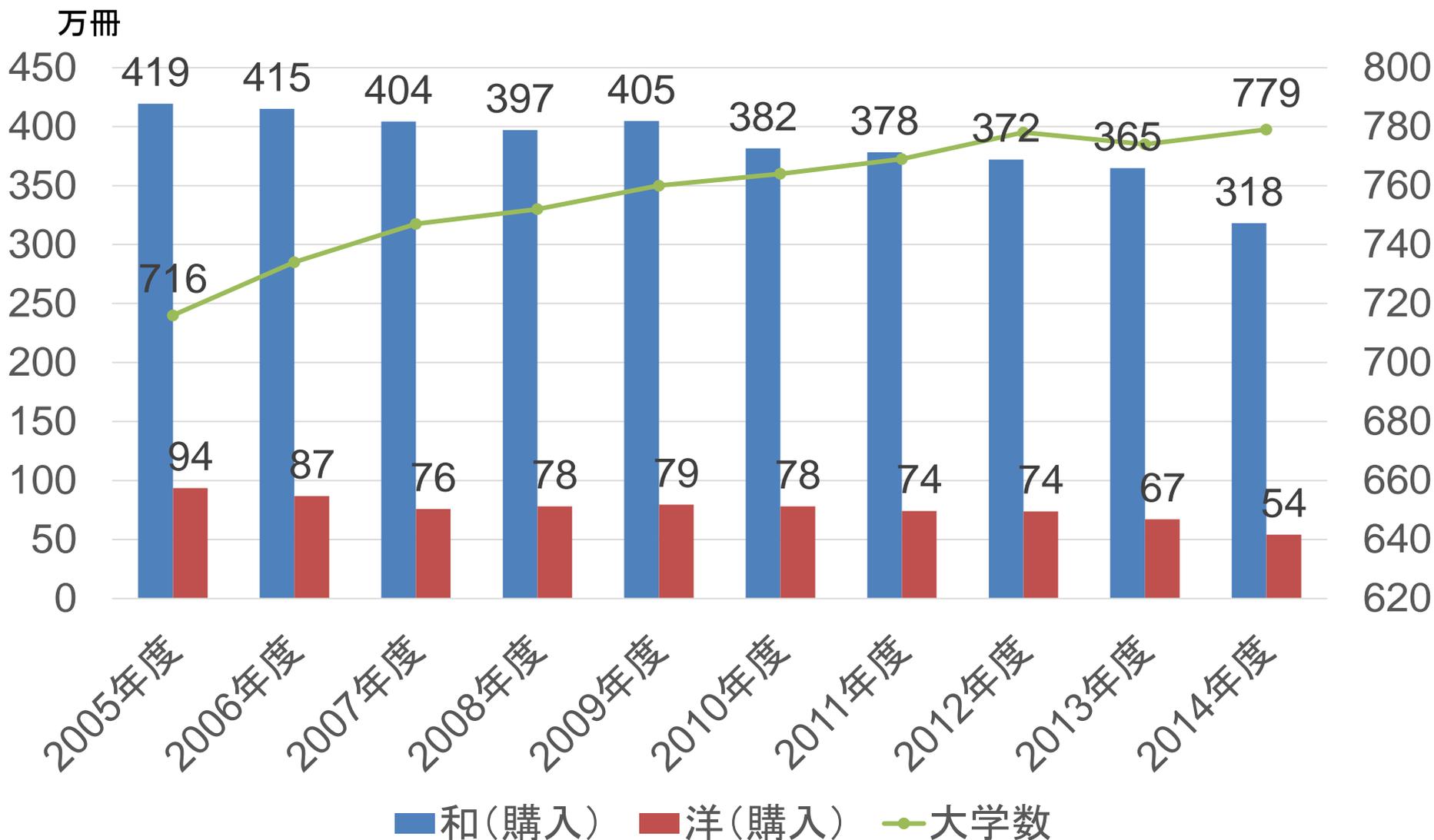
- はじめに
- 検討体制の概要
- 議論の前提
- 「これから委員会」での検討の推移
- 今後検討すべき課題

大学図書館資料費の推移



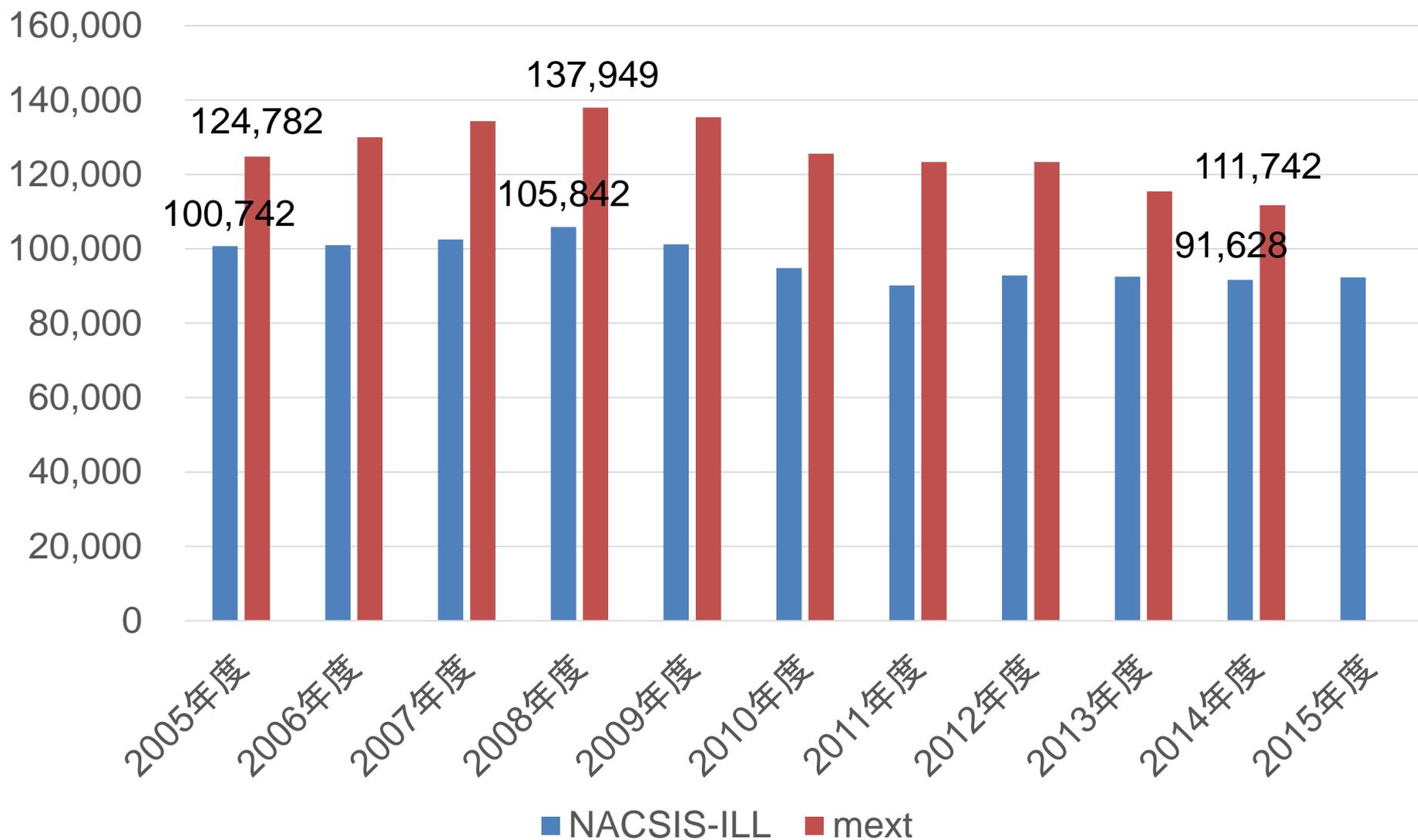
(出典：『学術情報基盤実態調査結果報告』文部科学省.の各年度版から該当データを参照し作成)

購入図書受入冊数の推移



(出典:『学術情報基盤実態調査結果報告』文部科学省.の各年度版から該当データを参照し作成)

現物貸借数の推移



大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所と
国公立大学図書館協力委員会との間における連携・協力の推進に関する
協定書

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所（以下「甲」という。）と国公立大学図書館協力委員会（以下「乙」という。）は、包括的な連携・協力の推進にあたり、次のとおり協定（以下「本協定」という。）を締結する。

（目的）

第1条 本協定は、甲及び乙が、総合目録データベースの構築、機関リポジトリの推進、教育研修などの事業を通じて構築してきたこれまでの連携・協力関係を踏まえ、昨今の学術情報の急速なデジタル化の進展の中で、我が国の大学等の教育研究機関において不可欠な学術情報の確保と発信の一層の強化を図ることを目的（以下「本目的」という。）とする。

(連携・協力の推進)

第2条 甲及び乙は、本目的を達成するために、次の事項について連携・協力を推進する。

- (1) バックファイルを含む電子ジャーナル等の確保と恒久的なアクセス保証体制の整備
- (2) 機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築
- (3) 電子情報資源を含む総合目録データベースの強化
- (4) 学術情報の確保と発信に関する人材の交流と育成
- (5) 学術情報の確保と発信に関する国際連携の推進
- (6) その他本目的を達成するために必要な事項

2 前項の事項について連携・協力を進めるために、甲及び乙は大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議を設置する。また、必要に応じて、この会議の下に、具体的な調査・検討及び事業等を実施するための組織を設置することができる。

大学図書館コンソーシアム連合

- (1) バックファイルを含む電子ジャーナル等の確保と恒久的なアクセス保証体制の整備
- (4) 学術情報の確保と発信に関する人材の交流と育成

機関リポジトリ推進委員会

- (2) 機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築
- (4) 学術情報の確保と発信に関する人材の交流と育成
- (5) 学術情報の確保と発信に関する国際連携の推進

これからの学術情報システム構築検討委員会(これから委員会)

- (3) 電子情報資源を含む総合目録データベースの強化

これから委員会(2012年6月設立)

委員名簿 2016年4月1日現在

- | | |
|-------|--|
| 佐藤 義則 | 東北学院大学 文学部 教授 |
| 熊淵 智行 | 東京大学附属図書館 情報管理課長 |
| 甲斐 重武 | 京都大学附属図書館 事務部長 |
| 渡邊 俊彦 | 鹿児島大学 学術情報部長 |
| 山田 奈々 | 青森県立保健大学附属図書館図書課主査 |
| 原 修 | 立教大学図書館 利用支援課 課長 |
| 近藤 茂生 | 立命館大学図書館 学術情報部 次長 |
| 呑海 沙織 | 筑波大学 図書館情報メディア系 教授 |
| 小山 憲司 | 中央大学 文学部 教授 |
| 大向 一輝 | 国立情報学研究所 コンテンツ科学系 准教授/学術基盤推進部 学術コンテンツ課
コンテンツシステム開発室長・図書室長 |
| 細川 聖二 | 国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課長 |
| 吉田 幸苗 | 国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課副課長 |

「これからの学術情報システムの在り方について」(2015年5月)

2. 進むべき方向性

これからの学術情報システムに求められるのは、ユーザーが必要とする学術情報を直接的かつ迅速に入手することができる環境であり、これらを実現するために、以下の3点を推進する必要がある。

- (1) 統合的発見環境の提供
- (2) メタデータの標準化
- (3) 学術情報資源の確保

「これからの学術情報システムの在り方について」(2015年5月)

3. 本委員会の当面の課題

(1) 電子情報資源のデータの管理・共有

電子リソースデータ共有作業部会(小野亘主査)

(2) NACSIS-CAT/ILLの再構築(軽量化・合理化)

NACSIS-CAT検討作業部会(佐藤初美主査)

2020年に向けた NACSIS-CAT/ILLの再構築

電子リソースデータ共有作業部会での検討状況
小野亘(東京学芸大学)

NACSIS-CAT検討作業部会での検討状況
三角太郎(千葉大学)

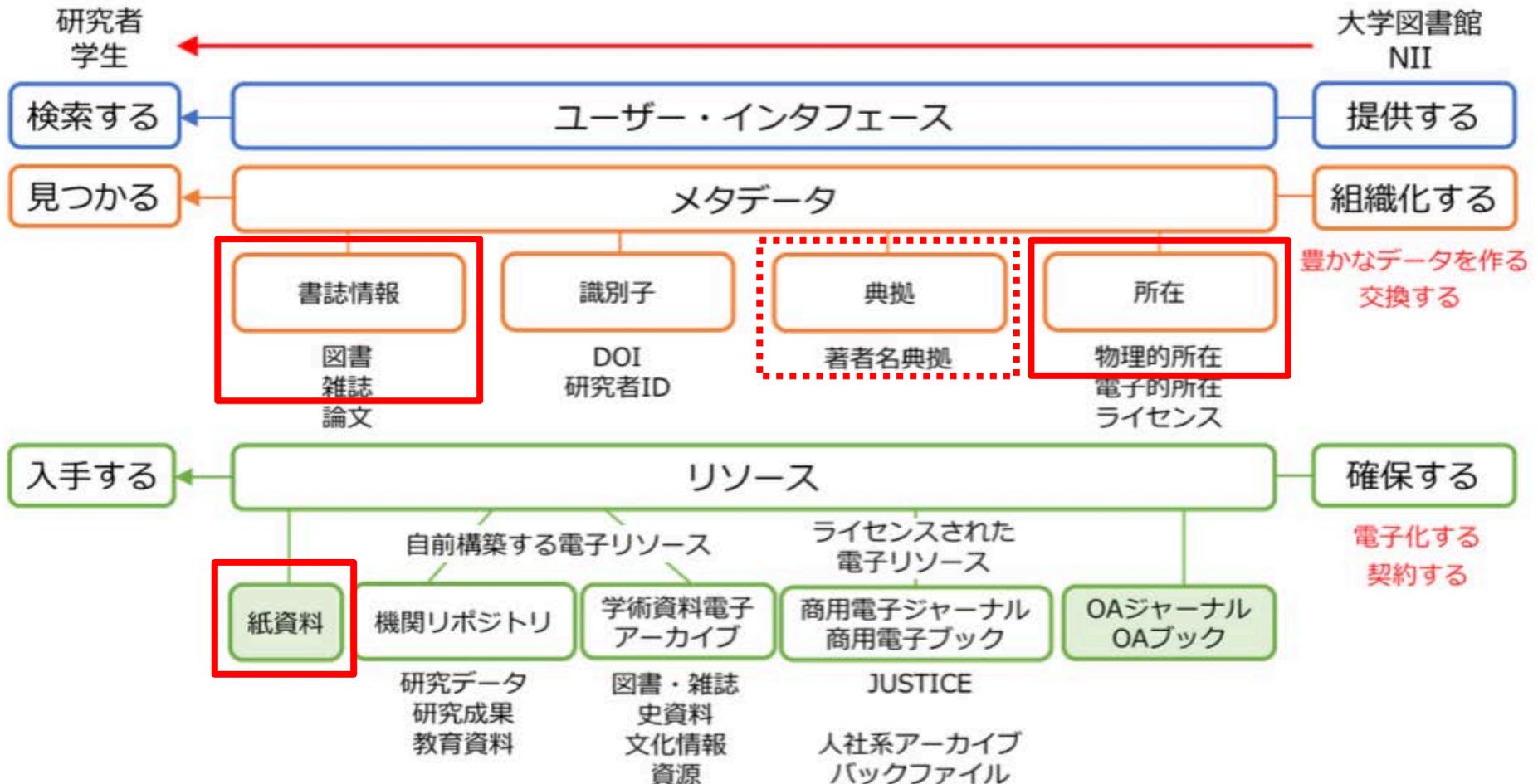
情報システムから見たNACSIS-CATの課題
細川聖二(国立情報学研究所)

NACSIS-CAT/ILLの再構築(軽量化・合理化)

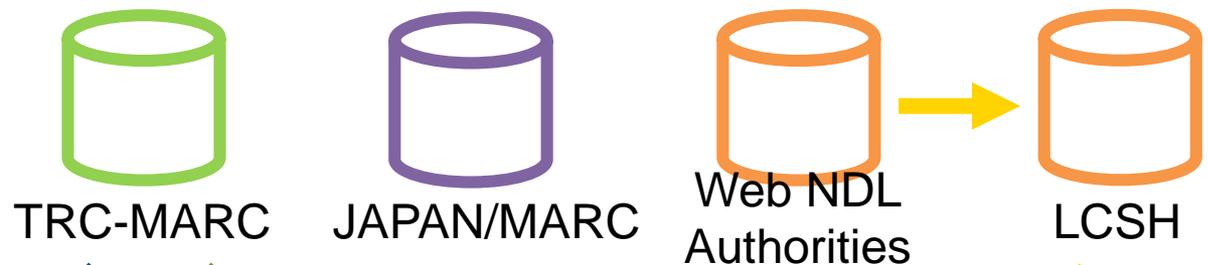
年月日	文書、イベント
2015年10月27日	NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について(基本方針案の要点)
2015年11月12日	図書館総合展:2020年のNACSIS-CAT/ILLを考える
2016年3月25日	NACSIS-CAT/ILLの再構築について(案) NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について(基本方針)(案)
2016年4月6-28日	意見募集
2016年5月26日	NIIオープンフォーラム:ERDB-JPパートナーミーティング NIIオープンフォーラム:2020年のNACSIS-CAT/ILL
2016年6月29日	NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について(基本方針)
2016年10月16日	全国図書館大会
2016年10月20日	第15回これから委員会
2016年11月9日	図書館総合展:NACSIS-CAT/ILLと電子リソース:2020年の学術情報システム

目録データのこれから

- データを組み合わせせてサービスをつくる



書誌のフラット化
(出版物物理単位で付与
されたIDの活用)



変換(調節)

現行NACSIS-CAT

NACSIS-CAT 2020

名寄せ

いつから?
これまでと同じ?
ルールは?
などの疑問

外部データを活用した
アクセスサービスの
開発・展開



ウェブを通じた情報公開
イベント等を通じた情報共有、交換

今後検討すべき課題(再掲)

- 「ユーザーが必要とする学術情報を直接的かつ迅速に入手することができる環境をいかに実現するか」

行動する知性。



ご清聴ありがとうございました

小山憲司(中央大学文学部)